



工房。後方に鏡山、遠くに虹の松原が見える



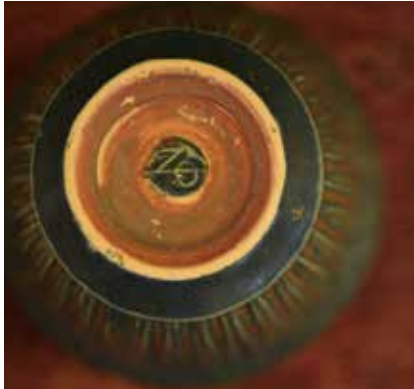
喫茶だった頃の趣を残す、ギャラリー入口



陶器を思わせる白磁の花器



千治氏の作品は大作から日常の器まで



器の底部。唐津焼の形式にはこだわらない



用の美を感じさせる佇まい



※写真は象氏

熊本 千治
Chiharu Kumamoto

熊本 象
Syuu Kumamoto

- 象氏
- ▶1977年 佐賀県唐津市に生まれる
 - ▶2006年 佐賀県立有田窯業大学ロクロ科卒業
 - ▶2006～2010年 唐津、岡晋吾氏に学ぶ
 - ▶2010年 赤水窯にて独立

- 駐車場(2～3台)
- 作業風景見学
- 体験教室
- 要連絡

窯印・作家印▶

赤水窯

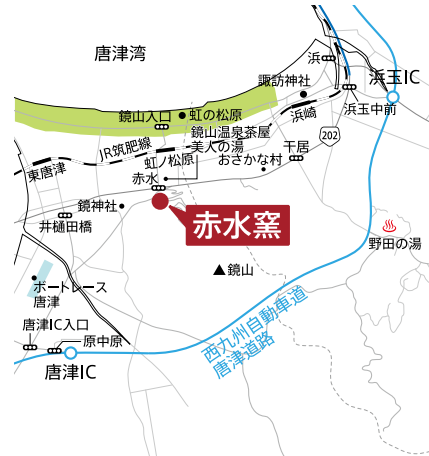
千

象

陶器と磁器の融合。

親子で作陶に取り組み赤水窯。「地元の素材を使って、自分なりの唐津焼をつくっていききたい」と息子の象さんは話す。陶器と磁器の融合。完全に唐津焼でやると日常生活の中ではなかなか使いづらい。あくまでもこだわりの「使う器」だ。

象さんの作品には、「すっきり、シャープ」なテーパーウェアが多い。技法にこだわりを持ち、唐津の伝統的なエッセンスを取り入れながら、今までの唐津焼に見られない物をつくりたいと日々研鑽を重ねている。高い目標を掲げているからこそ考えすぎる時もあるが、お客様の手に渡って喜んでもらった瞬間にその悩みは吹き飛んでしまう。唐津焼の魅力を知ってもらい、後世に伝えるための象さんの挑戦は続く。



唐津市鏡 4758 TEL.0955-77-2061
kumamoto.zo.1977@gmail.com
<http://www.akamizugama.com>